

## 2月4日～10日は「滋賀県がんと向き合う週間」です

滋賀県では毎年2月4日から10日を「滋賀県がんと向き合う週間」と定めています。

県民や事業者ががんに関する理解と関心を広めるために、協力機関・団体においてがんの予防、早期発見等に関する様々な取り組みが行われます。

当院では、この週間に合わせて、がんへの理解を深めていただくための以下の各種事業を行います。ぜひお立ち寄りください。

### ■がんに関する冊子・パンフレットの設置

期間：令和5年2月3日（金）～10日（金）  
場所：市立長浜病院 1階ホスピタルストリート  
内容：☆がんの治療や療養生活に関する冊子やパンフレットの設置、配布  
☆「びょういんの参観日」で作成したメッセージツリーの展示

問合せ先：がん対策推進室 電話 0749-68-2300（代表）



### ■「がんを知ろう展示会」

期間：令和5年2月4日（土）～15日（水）  
場所：長浜図書館（さざなみタウン内）  
内容：長浜市健康推進課によるクイズラリー、パネル展示など  
当院からはがんに関する冊子やパンフレットの展示を行います。

（冊子・パンフレットの展示は2月26日まで）

## 医療従事者研修会を開催しました

### ◆第325回開放型病床生涯教育研修会

令和5年1月12日に第325回開放型病床生涯教育研修会を開催しました。

今回は講師に京都大学・大学院医学研究科附属ゲノム医学センター長 松田文彦先生を迎え「ヒト生物学研究における大規模ゲノムの果たす役割」をテーマにご講演いただきました。院内外から45名の参加をいただき、参加者からはわかりやすく説明いただき参考になったと言ったご意見がありました。



## 医療従事者研修会を開催します

### ◆第327回開放型病床生涯教育研修会

兼 令和4年度 第2回臨床研修医症例報告会

日時：令和5年3月2日（木）17:30～19:10

テーマ：「臨床研修医による症例報告」

会場：市立長浜病院本館2階 講堂

講師：臨床研修医 市原 豪 氏

臨床研修医 山崎 一輝 氏

臨床研修医 渡邊 重之 氏

臨床研修医 深野 毅雄 氏

※今回は集合方式のみで開催します。

### ◆第328回開放型病床生涯教育研修会

兼 令和4年度 第3回臨床研修医症例報告会

日時：令和5年3月8日（水）17:30～18:40

テーマ：「臨床研修医による症例報告」

会場：市立長浜病院本館2階 講堂

講師：臨床研修医 初村 拓毅 氏

臨床研修医 佐々木 暁香 氏

臨床研修医 中田 啓哉 氏

※今回は集合方式のみで開催します。

## 市立長浜病院 地域医療連携だより

令和5年2月1日号

No.215

理念

地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、地域完結型の医療を推進します。

市立長浜病院  
患者総合支援センター 地域医療連携室  
〒526-8580 長浜市大茂亥町 313 番地  
TEL: 0749-65-2720  
FAX: 0749-65-2730  
http://www.nagahama-hp.jp/



救急告示病院  
日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療連携拠点病院  
厚生労働省臨床研修指定病院  
周産期協力病院  
地域医療支援病院

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

## ERAS 術後回復促進プログラムについて

外科責任部長 上田 修吾



外科領域でERAS(enhanced recovery after surgery; イーラス)術後回復促進プログラムが注目されています。手術を受けられる患者さんが合併症なく、短い入院期間で早期に退院でき、医療費削減に役立つエビデンスが蓄積されています。ヨーロッパで提唱されたERASという概念は、当初手術後早期退院を目指す周術期管理として捉えられることが多かったのですが、重要な点は患者さんの恒常性ホメオスターシスを維持し、質の高い周術期管理を実施することです。つまり、回復を遅らせ合併症を生じうる患者さんの併存症、体力低下などを外科主治医だけでなく各医療専門スタッフが術前に評価し、問題を解決することにより外科手術からの早期回復を目指すことが必要です。

市立長浜病院では、2022年夏よりヨーロッパのERAS国際専門機関による教育プログラムに参加し、大腸癌手術を対象にERASプログラムを開始しています。外科・麻酔科医師、手術室・ICU・外科病棟看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、歯科医師、各種医療データを管理する専門事務員も含むERASチームを立ち上げました。まず、過去に実施した大腸癌手術の経過・合併症などのデータを振り返り、各スタッフ間で大腸癌手術に関連する情報を共有しました。2023年1月より最新のエビデンスに沿った診療、周術期管理を開始したところです。具体的には、外科主治医が手術の方針を決定した後、入院前外来レベルで、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、麻酔科医師・手術室看護師、歯科医師が介入しカウンセリングを行います。その際、術前1ヶ月間の禁煙・禁酒指導、低栄養に対する経口栄養剤投与などによる栄養改善、貧血に対する鉄剤治療、術前リハビリテーション、歯科口腔内衛生管理を行います。また、手術当日朝まで経口炭水化物飲料を摂取いただき、絶飲食時間を短縮することで周術期の脱水と異化亢進を予防します。従来通り患者さんに負担の少ない腹腔鏡下大腸切除手術を実施し、手術後早期より離床と経口栄養剤内服を進めていきます。術後疼痛管理では、各種麻酔法鎮痛法を使用し麻薬性鎮痛剤投与量をできるだけ少なくすることにより、術後の嘔気予防と早期の腸管蠕動回復を目指します。患者さんによる疼痛や嘔気の評価、満足度も確認しながら、早期からの食事再開、早期退院につなげる方針です。最終的に、エビデンスに基づくERASプロトコルに遵守した管理ができていくかをERAS国際専門機関により評価される予定になっています。

患者さんに安心して外科手術を受けていただけるよう全職員で取り組んでいます。

# 糖尿病療養指導チームの活動

## 管理栄養士

糖尿病療養の基本は、食事・運動・薬物療法ですが、どの世代の患者さんでも切り離すことができないのが食事かと思います。食は人間の基本的欲求の一つであり、多くの人にとっては楽しみでもあるため、なかなかコントロールが難しいものですが、一生上手に付き合っていく必要があります。

以前は年に1度、患者さん方が委員会メンバーの医師・看護師・管理栄養士と一緒に食事をしながら日頃の療養の悩みを話し合う会を開いていましたが、コロナ禍に入ってから開催できていません。代わりに糖尿病週間の際に、簡単に作れる1品のレシピを写真付きで紹介していますが、一方通行の情報提供で終わっているのが現実です。

With コロナでどのようなことができるかはまだ模索中ですが、栄養指導時に得た情報を医師や病棟・外来の看護師、薬剤師など多くのチームメンバーと共有することで、患者さんに合った療養方法で多方面からサポートすることができると考えています。

## 医師

「糖尿病、あなたが主治医」と聞いてピン!ときますか?

ご自身の取り組みが重要な糖尿病治療において、糖尿病療養指導チームはあらゆるスタッフが力を集結して皆様に寄り添い支えられる存在を目指します。



## 看護師

糖尿病療養指導チームの看護師の中には、慢性疾患看護専門看護師・糖尿病看護認定看護師・日本糖尿病療養指導士・滋賀糖尿病療養指導士の資格を取得しているメンバーが所属しています。

活動内容は、インスリン自己注射や自己血糖測定に関する知識・手技指導、患者や家族のセルフケア行動に関する悩みやトラブルの相談など、糖尿病療養支援に関するサポートを行っています。また、医師・管理栄養士・外来看護師が連携し透析予防指導を行い、透析導入予防にも努めています。

11月の糖尿病週間では、糖尿病イベントを開催し、生活習慣への関心が高まるよう患者様の意識向上にむけた取り組みを行っています。また、月一回の糖尿病療養指導委員会では、病棟や外来の事例共有を行うことで療養支援に関するスキルアップに努めています。

私たち看護師は、多職種連携の中心となり患者様と医療者の架け橋になることで、質の高いケアを提供していけるよう療養支援のコーディネートを積極的に行ってまいります。

## 理学療法士

リハビリテーション技術科の理学療法士は糖尿病療養指導チームと連携し様々な活動を行っています。

コロナ禍で月に2回実施していた院内での糖尿病教室が行えない状況の中、糖尿病教育入院患者や、外来患者への個別指導を中心に、患者の生活スタイルを確認し、本人の能力や状況に合った運動内容を提案させていただいています。また、個別指導で得た情報や指導内容はカルテ記事に記録し他部門との情報共有を図っています。

また、年に一度地域の方に向け運動療法研修会を開催し、糖尿病運動療法の基礎知識、体力測定を行い、その方に合った運動指導を行っています。コロナ禍の為、現在は中止していますが、感染状況を確認し、今後再開を検討していきたいと思っています。

## 薬剤師

糖尿病治療において目標の血糖コントロールを維持するためには、食事療法、運動療法に加え薬物療法が重要となっています。そこで糖尿病療養指導チームで薬剤師は、医療従事者や一般市民に向けて薬に関するの情報提供や啓発活動を行っています。

一般市民に向けては、糖尿病教室や世界糖尿病デー(糖尿病週間)を介して正しい知識の習得および情報提供を行う事を心がけています。具体的には、内服薬やインスリン/GLP-1など注射薬の効能・効果についてより知って頂く事、シックデイの際の正しい対処方法などを習得して頂く事です。近年はコロナ禍の為、活動の規模を縮小・自粛していますが落ち着いた際には再開する見通しです。

医療従事者に対しては、院内に新規採用となった薬剤や新薬に関するの情報提供や既存の薬を含めた糖尿病薬に関して勉強会を行う事により知識の再確認などを行っています。

## 臨床検査技師

臨床検査技師は主に「検査データを取り扱う仕事」と、実際に「患者さんに接して検査を行う仕事」があります。

「検査データを取り扱う仕事」では、患者の皆さんと直に接する機会が少ないため、日常業務において「検査データを迅速かつ正確に報告する」「低血糖等の緊急報告値をより早く臨床に報告する」この2点を心がけています。

「患者さんに接して検査を行う仕事」は、心電図検査や超音波検査などがあります。糖尿病患者さんに大きく関係してくるのが、動脈硬化の程度を調べる血圧脈波検査や頸動脈超音波検査、末梢神経に障害の有無を調べる神経伝導検査などです。医師の依頼に応じて、正確で少しでもわかりやすい結果を報告できるように日々検査しています。

また、糖尿病療養指導チーム内では糖尿病週間などのイベント時に血糖値の検査や検査データに関する掲示物を作成し、来院される方の目にとまるように活動しています。

